

# 北海道におけるアシナガトビハムシ属 *Longitarsus* 4 種の 分布記録と生態に関する知見

末長晴輝<sup>1)</sup>・堀 繁久<sup>2)</sup>

1) 〒 710-0826 岡山県倉敷市老松町 3 丁目 14 番 33 クリーンピア 106 号室

2) 〒 004-0006 札幌市厚別区厚別町小野幌 53-2 北海道開拓記念館

## Distributional records of four species of the genus *Longitarsus* Berthold from Hokkaido with their biology

Haruki SUENAGA and Shigehisa HORI

アシナガトビハムシ属 *Longitarsus* Berthold, 1827 は、日本から 28 種が記録されており、非常に小さくよく似た種が多いため同定が困難なグループである (Ohno, 1968; 滝沢, 2012)。筆者らはこの度、北海道で記録の少ないヒナノウスツボアシナガトビハムシとチュウジョウアシナガトビハムシ、タツナミソウアシナガトビハムシ、スズキアシナガトビハムシを確認したので、生態情報とともに記録する。

1. チュウジョウアシナガトビハムシ *Longitarsus ohnoi* Gruev, 1995

1♂, 51 exs., 利尻町杓形, 3. VIII. 2012, 末長採集・保管。

海岸部のハマヒルガオで多数が見られた (図 4)。北海道内では焼尻島や釧路地方などでの記録があるが、利尻島では初めてと思われる (Ohno, 1968; 飯島, 2005)。

*Longitarsus chujoi* Ohno, 1968 は *L. chujoi* Cski, 1941 の異物同名であり、Gruev (1995) によって *L.*



図1-3. 全形図 (上) と雄交尾器. 1, ヒナノウスツボアシナガトビハムシ; 2, タツナミソウアシナガトビハムシ; 3, スズキアシナガトビハムシ. スケールは1.0 mm.



図4. ハマヒルガオとチュウジョウアシナガトビハムシの食痕(矢印)。

*ohnoi* Gruev, 1995 の新名が与えられている。

## 2. ヒナノウスツボアシナガトビハムシ *Longitarsus okushiriensis* Gruev, 1995

1♂, 26 exs., 利尻富士町鬼脇, 2. VIII. 2012, 末長採集, 末長・北海道開拓記念館保管 (図1)。

Ohno (1968) の記載以降北海道内での記録がなく, 北海道レッドリストで希少種に指定されている (北海道, 2001)。利尻島の海岸部に生育するエゾヒナノウスツボの葉上で多数の成虫を食痕とともに再確認した (図5)。食草であるエゾヒナノウスツボ自体が北海道内では海岸部の礫浜といった特定の環境でしか見られず, 本種が原記載以降長らく確認されなかったのは礫浜を含む海岸部でハムシ類の調査がほとんど行われなかったためと考えられる。今後, 北海道内の礫浜のエゾヒナノウスツボを重点的に調査することによって, 新たな生息地が発見される可能性がある。なお, 九州では海岸部



図5. エゾヒナノウスツボと食痕。

ではなく草原地帯のゴマノハグサ葉上で見られるため, 本種自体が海岸部といった特定の環境に依存するわけではなく, ホストであるゴマノハグサ科植物の分布によって生息地が限定

されていると考えられる (今坂, 2009, 2010)。なお, 道内では礼文島や天売島, 奥尻島での記録はあるが, 利尻島からの記録は初めてと思われる (Ohno, 1968)。

*L. scrophulariae* Ohno, 1968 は *L. suturatus* var. *scrophulariae* Normand, 1937 の一次ホモニムであり, Gruev (1995) によって *L. okushiriensis* Gruev, 1995 の新名が与えられている。

## 3. タツナミソウアシナガトビハムシ *Longitarsus scutellariae* Ohno, 1968

1♂, 幌延町天塩川右岸, 25. VI-9. VII. 1992, 堀採集・末長保管 (図2)。

1 ex., 島牧村大平山, 2-14. VII. 2004, 山内栄治採集・末長保管。

1 ex., 苫小牧市ウトナイ湖, 7. VIII. 2012, 末長採集・保管。

3 exs., 苫小牧市ウトナイ湖, 8. VIII. 2012, 末長採集・保管。

Ohno (1968) の記載以降北海道内での記録がなく, 北海道レッドリストで希少種に指定されている (北海道, 2001)。ウトナイ湖での記録は, シソ科のナミキソウを含む草地のスイーピングによって得られた。ナミキソウにノミハムシ特有の食痕がつ

いていたが, これが本種の食痕である可能性がある (図6)。北海道では林縁や草原地帯のタツナミソウ類やナミキソウを重点的に探せば今後も追加が得られると思われるが, これまで得られた標本数が少ないことから少ない種であると考えられる。



図6. ナミキソウとタツナミソウアシナガトビハムシと思われる食痕(矢印)。

## 4. スズキアシナガトビハムシ *Longitarsus suzukii* Ohno, 1968

1 ex., 北海道興部町オムシャリ沼, 5-17. VII. 1994, 堀採集・末長保管。

1♂, 8 exs., 北海道苫小牧市ウトナイ湖, 23. V.

2012, 未長採集・保管 (図3).

4 exs., 北海道苫小牧市ウトナイ湖, 6. VI. 2012, 未長採集・保管.

6 exs., 北海道苫小牧市ウトナイ湖, 8. VIII. 2012, 未長採集・保管.

ウトナイ湖では湖岸の湿地のスーピングで数頭が得られたが, 食草は確認できなかった. 道内では他に釧路地方で記録されている (飯島, 2005). Ohno (1968) で北海道や長野県から得られたメス個体の標本に基づいて記載され, 木元・滝沢 (1994) ではクロボシトビハムシのシノニムの疑いがあるとされていた. クロボシトビハムシにやや似るが, 体長が一回り小さくやや平たいほか, 雄交尾器の形によって区別できる. 滝沢 (2012) には晩秋に青森県車力村の海岸部にあるヨシ湿原のスーピングで未熟個体が多数得られたとの記述があり, 本種は北海道と本州北部および本州中部高地の湿地に生息する種であると考えられる.

最後に, 本報の校閲をいただいた北海道大学の原昌宏博士と愛媛大学の吉富博之博士, 本報を執筆するにあたってアドバイスをいただいた今坂正一氏に厚くお礼申し上げる.

### 【短報】宇治市でオオイチモンジシマゲンゴロウを採集

オオイチモンジシマゲンゴロウ *Hydaticus conspersus conspersus* Régimbart, 1899 は環境省のレッドデータブックで絶滅危惧IB類とされ, 全国的にも絶滅の危機に瀕している大型ゲンゴロウの一種である. 京都府では既に京都市において記録があり (正木, 1998; 芦田, 2008), 京都府レッドデータブックでは絶滅寸前種とされているが (芦田, 2008), 最近でも京都市周辺の丘陵地では少数が採集されているとのことである (水野, 私信). 筆者は宇治市において本種を採集したので報告する. 本種のような希少大型水生昆虫類の採集記録を公表することは



図1. 宇治市産オオイチモンジシマゲンゴロウ.

### 引用文献

- Grucev, B., 1995. Bibliography of the descriptions and the nomenclatoric changes of the palaearctic *Longitarsus* species after Cski & Heikertinger: Chrysomelidae Halticinae, *Longitarsus*, in Coleopterorum Catalogus, Junk & Schenkling (1939 - 1940) (Coleoptera Chrysomelidae). *Memorie della Società Entomologica Italiana*, 74: 33-63.
- 北海道, 2001. 北海道の希少野生生物—北海道レッドデータブック 2001—. 309pp.
- 飯島一雄, 2005. 北海道東部の鞘翅目—ハムシ科—. 標茶町郷土館報告, (17): 127-152.
- 今坂正一, 2009. 大野原で確認した昆虫類—長崎県 RDB 調査の見直し調査の一環として—. こがねむし (長崎昆虫研究会会報), (75): 1-25.
- 今坂正一, 2010. 2010年に大野原で確認した甲虫類—長崎県 RDBの見直し調査のまとめ—. こがねむし (長崎昆虫研究会会報), (76): 1-29.
- 木元新作・滝沢春雄, 1994. 日本産ハムシ類幼虫・成虫分類図説. 東海大学出版会, 東京, 539 pp.
- Ohno, M., 1968. A revision of *Longitarsus*-species occurring in Japan (Coleoptera, Chrysomelidae, Alticinae). *Journal of the Toyo University*, (9): 1-56.
- 滝沢春雄, 2012. 日本産ハムシ科生態覚書 (6). 神奈川虫報, (177): 33-21.

(2013年5月14日受領, 2013年6月16日受理)

保全上好ましくないと考えるが, 今回の採集例は本種本来の生息地と異なる平野部の大きな池での採集記録であり, おそらく偶発的に採集されたものであると考えるため発表することとした.

1♀, 京都府宇治市木幡池, 27. III. 2011, 吉富博之採集, 愛媛大学ミュージアム保管.

末筆ながら, 本種の生息状況についてご教示くださった水野弘造氏にお礼申し上げます.

### 引用文献

- 正木 清, 1998. オオイチモンジシマゲンゴロウを京都で再確認. *ねじればね*, (79): 6-7.
- 芦田 久, 2008. オオイチモンジシマゲンゴロウ *Hydaticus conspersus conspersus* Régimbart, 1899. 京都府レッドデータブック. <http://www.pref.kyoto.jp/kankyo/rdb/bio/db/ins0042.html> (2013年5月14日アクセス).

(吉富博之 愛媛大学ミュージアム)